

[成果情報名]イチゴ「こいのか」の定植日の違いによる収量性

[要約] イチゴ新品種「こいのか」（普通ポット栽培）は花芽分化後の定植が遅れると年内収量が減少するため、年内収量を確保するためには適期定植が良い。

[キーワード] イチゴ、年内収量

[担当] 農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4318

[区分] 野菜

[分類] 指導

[背景・ねらい]

イチゴ新品種「こいのか」は現在県内において栽培試験に取り組まれている品種である。

品種の特性として花芽分化が「さちのか」よりも早いため定植時期が早い。しかしながら花芽分化確認後、悪天候などの諸条件により、すぐに定植できない場合の収量等への影響が懸念されている。

そこで、花芽分化後の苗における定植日の違いによる収量性へ及ぼす影響を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「こいのか」の年内収量は、適期定植を行なったものが、10日遅く定植したものよりも高い（図1）。
2. 「さちのか」の総収量は、適期定植を行ったものが、10日遅く定植したものよりも高いが、「こいのか」の総収量は適期定植を行ったものと10日遅く定植したものは同程度である（図1）。
3. 「さちのか」・「こいのか」ともに、平均1果重は10日遅く定植したものが大きい傾向にあり、年内の収穫果実数の年内は、適期定植区が多く、全体は同程度である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 定植までに液肥を施用した時の腋果房の連続性等を確認する必要がある。
2. 基肥を含む肥培管理・栽培管理は「さちのか」の基準で行っているため、「こいのか」に適した施肥体系での果房の連続性等を確認する必要がある。

[具体的データ]

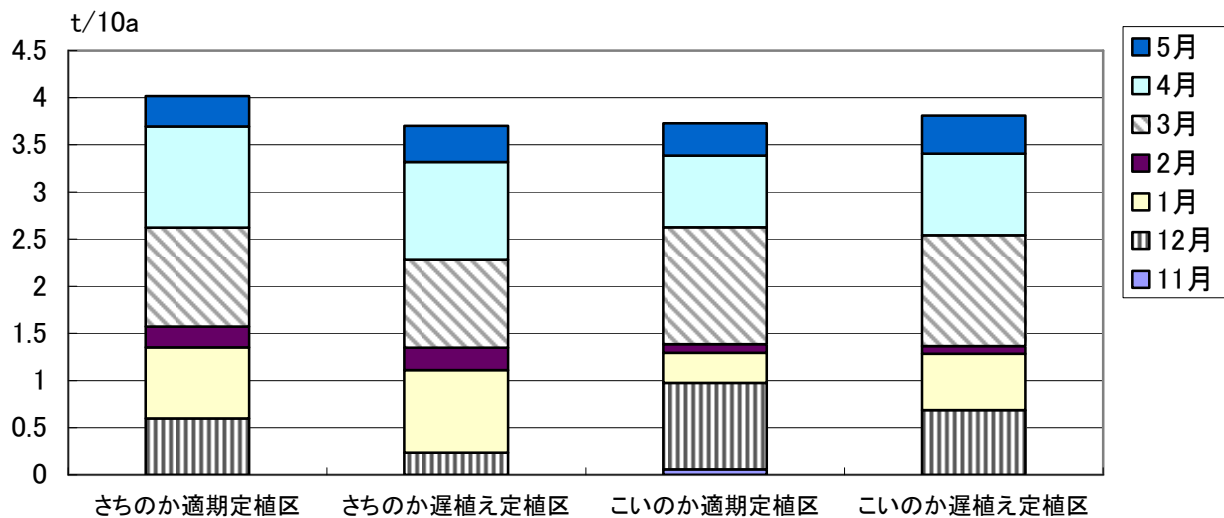


図1 定植日の違いにおける月別収量

※収穫終了 5月22日

表1 各試験区における1果重平均および果実数(普通ポット栽培)

	1果重平均 果実数(10株当たり)	
	(g)	年内 全体
さちのか適期定植区	16.5	37.0 338.3
さちのか遅植え定植区	17.0	13.3 301.7
こいのか適期定植区	17.3	65.7 298.7
こいのか遅植え定植区	18.0	40.0 294.3

※「さちのか」・「こいのか」とも9月16日花芽分化(1.5:肥厚後期~2:花房分割期)
適期定植区(9月16日)・遅植え定植区(9月26日)

耕種概要

- (1) 供試品種 「こいのか」
対照品種 「さちのか」
- (2) 栽植様式 株間20cm、1ベンチ2条植え(7200株/10a)
- (3) 基肥 N-12.7kg、P₂O₅-10.9kg、K₂O-9.9kg/10a
- (4) 規模 1区10株 3反復
- (5) 処理区
適期定植区 2005年9月16日定植
遅植え定植区 2005年9月26日定植
※遅植え定植区については定植まで灌水のみで苗を維持
- (5) 加温・電照 加温8℃設定 電照2時間(日長延長)

[その他]

研究課題名: 西南暖地におけるイチゴ促成栽培に適した優良系統の選定
 予算区分: 県単
 研究期間: 2004~2008年度
 研究担当者: 藤田晃久、野口浩隆
 発表論文等: